

建設コンサルタント協会関東支部では、会員企業の女性社員同士の交流や情報交換、女性社員の声を支部活動へ反映させることを目的に、女性の会を発足しています。

司会——今日は、女性の会の方と関東支部の支部長にお集まりいただきました。初めに建設コンサルタントを志したきっかけを教えてくださいませんか？

竹内——私は、子供の頃、両親がドライブでダムに連れて行ってくれたのがきっかけかもしれません。大学の女性の同級生は、公務員や違う分野に進む人も多かったのですが、私は設計や計画をやりたくて、インターンシップの際に知った建設コンサルタントに進みました。

須賀——私も、家族のドライブがきっかけでした。中学のときに、山を切り崩して工事している現場を通りがかったのです。自然が好きでしたから、なぜこのようなことをするのか、本当に必要があるのか疑問に思いましたが、知識が無く判断出来ない自分が嫌で、勉強しようと思いました。幅広い価値感をもつ技術者の中で環境を考えたいと思っていたので、構造、道路、交通など様々な分野をもつ建設コンサルタントを選びました。

北浦——私は、中学生くらいのときに阪神大震災で倒壊した高架橋について、横倒しでは側道がつぶれるので、真下に落とす研究があると聞いて、そういう考え方があるのか、これは面白いと。

長谷川——いやいや、倒壊しない研究をしないと(笑)。

北浦——それもそうです(笑)。就職活動の際は、建設コンサルタントとゼネコンで迷いました。単に資料を作ったりする仕事と迷っていたので、ここまでやらせて貰えるのかと、やり甲斐は感じますね。

須賀——確かに、やり甲斐があり、想像していた以上に影響力がある仕事だと思います。

清久——環境に配慮した工法ってどんどん新しい技術ができてきているから、専門家が必要とされますよね。私は、守るという意識は女性のほうが強いと思うのです。自然を守る、動物を守る。直接環境を守っている仕事は建設コンサルタント、というアピールはあると思います。

長谷川——構造物等の設計にかかわっている仕事ではどうですか？

竹内——私は、新東名のように自分たちの成果をニュースで見るとやり甲斐を感じますね。

長谷川——私も、自分が計画・設計した橋が出来ると、実物はゼネコンさんがつくりますが、「俺が作った」と胸が熱くなり家族や他の人に自慢したくなりますね。

### ■かわいい我が子が働ける職場か

長谷川——仕事をするこの魅力を伝えていくには何が必要でしょう。この仕事は両親や一般の人にも理解され女性が進出できる職業だと認識して貰うためには、どうしたら良いでしょう。

清久——長時間労働のイメージで迷っている人は多いと思います。

北浦——私は、就職活動中も入社後も両親に「公務員がいいんじゃないか」と言われました。公務員ではできないことがやりたいと説明して、今に至りますが。

## 座談会

# 建設コンサルタント業界における女性の活躍

長谷川伸一 北浦 利依 清久 笑子 竹内 彩 須賀 奈津子  
2014年10月8日(水) 於：東京国際フォーラム G601会議室



■橋を見つけると興味が湧きたてられる【北浦さん】  
(現場付近の豊田アローズブリッジを背景に)



だが、先輩の「設計をやりたくないなら、絶対に建設コンサルタント」いうアドバイスで決めました。

### ■建設コンサルタントの魅力

北浦——入社後は、大学の専攻をそのまま仕事に出来ました。研究室の友人に話すと、それはとても恵まれていると言われます。

清久——それはありますね。私も大学の友達から、勉強したことを活かして仕事が出来ているのは羨ましいと良く言われます。

北浦——ゼネコンに就職した同級生には「専門分野がそのまま仕事にできるなんて稀だ」と驚かれました。その子は、専門分野の橋じゃなくて、岸壁を設計しているそうです(笑)。

長谷川——皆さんのように土木に興味がある方でも、就職活動をするまで、建設コンサルタントを知らなかった方は多いですね。昨年の若手の会の時も話題になりましたが、優秀な担い手確保の面からも、建設コンサルタントの役割や社会への貢献についての広報が必要ですね。

清久——土木って普通に生活していると、ゼネコンが重機を使って工事をしている場面しか思い浮かばないけど、計画や環境調査、設計が積み上がった上で工事をしていることも知って欲しいですね。

須賀——そこに魅力を感じる人、結構いるはずですよ。

清久——責任ある仕事、影響力のある仕事ですよ。環境アセスメントなどは、発注者さんは人生の中で一回経験するかどうか。でも、私たちは三回も四回も経験しているから、工事の指針となる評価書の策定などでも頼りにされる。

いんじゃないの?と心配していましたね。

清久——だって、ネットで「建設コンサルタント 労働環境」で検索すると、ブラックな情報しか出てこない(笑)。こんな業界に可愛い娘を入れられないと思うのも分かります。実際は、そこまで酷くないのに。

長谷川——それは男性も一緒ですね。長時間労働は、出産や育児といった話の前に改善すべき課題です。最近は一ノ残業デーなどの取り組みも成果が出始めていることのPRが必要ですね。

竹内——意識の問題も大きいですよ。一ノ残業デーだって、初めは、「発注者から苦情が来る」とか「緊急対応があるから出来ない」という人も多かったんです。でも、実際やってみると出来る。

清久——私は結婚して、定時で帰らなくてはいけなくなつたので、際限なくは出来なくなりました。上司と相談して成果のターゲットを決めて、こだわりすぎないようにしています。

長谷川——これは男性も女性も一緒だけど、限られた時間で良い物を作るのがプロだという意識が変わることで、労働環境も改善し、会社の生産性も上がり、社会全体のコストも下り、親も安心することができますね。

### ■作業着は戦服

司会——話は変わりますが、女性らしさを忘れないためにされていることってありますか？

竹内——土木業界の女性って、あんまり華やかなイメージがないですよ。私は、忙しくて、身なりには気を付けるようにしています。「土木の仕事をしている」という意外性が格好いいじゃ

ないですか。

清久——確かに、ギャップはありますね。私も「ダム現場に行っている」と言うと「えっ? ヘルメットかぶっている姿が想像できない」と言われます。

長谷川——作業着やヘルメットを女性向けにカラフルにしてみましたらどうでしょう。

竹内——そ、それは普通の作業着の方が格好いいですよ。

清久——そうそう、作業着、かっこいいと思う。私も好きですね。

須賀——別に電車にも、飛行機にも、作業着で乗れますよね。周りの人は「えっ?」って。

北浦——乗れちゃう。むしろ「着こなしている」とか言われる。

司会——えっと、女性らしさを忘れないために・・・(笑)。

長谷川——なるほど、プロを感じさせる作業着の格好良さと、普段の女らしさ。そのギャップがいいということですね。ただ、学生さんはどうでしょう。作業着に抵抗があるかも。

竹内——土木を志している人は、技術職に誇りがあるから、作業着は格好いいと思うと思いますよ。キャビンアテンダントさんの制服と同じで、私たちにとっては戦闘服ですよ。

### ■仕事と家庭の両立

長谷川——結婚すると家事もあるし、将来は出産もあるでしょう。働き方を変えていく必要性は感じますか?

北浦——私は、今は営業の部署で残業も少ないですが、技術でやれたかと言われると自信は無

とに意味がある。正社員としてあなたが安心出来る環境で続けて下さい」と言っていたら、正社員のままでやらせていただいています。みんな暖かく見守ってくれています。申し訳ないという思いもありますね。

竹内——気持ちの問題もありますよね。自分がフルタイムで働いているのに、定時で毎日帰る人がいる。理解はあっても感情は生まれます。特に自分が目一杯だと思ってる余裕が持てなくなります。女性だけを考えるのではなくて、全体の労働環境を改善していく必要があると思います。

長谷川——これからは介護の問題もあるので、女性に限った問題では無いですね。プライベートの事情で働ける時間が限られる状況になった人を切り捨てていると、業界そのものが成り立たなくなります。女性も優秀な担い手として、建設コンサルタントが存続するために必要なのです。

### ■女性の感性が活きる

竹内——最近新聞で読んでちょっと面白いなと思ってるのですが、地元の子供達に橋の舗装前のコンクリート橋面にお絵かきして貰うという取り組みが実施されていました。舗装したら見えなくなるけど、子供達に落書きの記憶は残って、橋に愛着が湧くいい取り組みだなと思いました。

長谷川——面白いですね。工事を工夫して一日遅らせるだけで出来ますしね。そういうアイデアは女性の感性じゃないかな、私なんかは、早く舗装しちゃえと思っちゃいますよ(笑)。女性



■帰宅時間カードの設置状況とカードの種類【清久さん提供】  
(本社は赤色の22時以降のカードもある)



■座談会の様子



■在宅勤務用パソコン【清久さん提供】  
(特別にセキュリティ対策をした通信機器を使用する)



■現場から作業着のまま内業することも【須賀さん】



■作業着に身を包み調査に臨む【清久さん】



■業務の中でも好きな現地踏査作業と社内の仕事風景【竹内さん】  
(作業着と女性らしさとのギャップも魅力の一つ)

いですね。仕事は好きですけど、妻として、将来は母としての自分の理想像もありますから。長谷川——そういう現実、経営者として考えるべき問題ですね。我国の実情や女性の活躍の中で、女性を重要な担い手として見る必要がある。要です。

北浦——辞めてしまったら、一だつた労働力がゼロになりますものね。

長谷川——私は、ゼロか一かじゃなくて、〇・五で働く仕組みがあっても良いと思います。

北浦——それはそうかもしれないですね。

清久——アンケートでも、整備してもらいたい制度として、在宅勤務や、時短勤務という要望は多くありました。時間を調整して働ける仕組みを女性が必要としています。

須賀——仕事に満足している人が五割、長く続けた人が四割、でも継続に不安がある人が七割ですから、働き続けていくための制度面のバックアップは必要だと思います。

長谷川——例えば今日は子供を迎えに行かないといけないから五時間勤務だけど、その範囲の中で成果を出して正しく評価されるなど、ゼロから一の間でも働ける多様性のある仕組みや環境が必要ですね。

清久——私は結婚した時、旦那から「辞めてくれ」と言われました。年度末とか、家に帰れない日もあったので、「それじゃあ何も出来ないだろう」となりますよ。でも仕事が好きで諦めきれなくて、会社の方に「時給制の契約社員でいいから定時で帰られるようにしてほしい」と相談しました。

そうしたら「そんなことはしなくていい、この仕事は経験値が大切だから、長くいてくれるこ

ならでは、というのはありますか?

竹内——社内でもすぐに名前を覚えて貰えるので、これは有効に使おうと思っています(笑)。

長谷川——女性のほうがコミュニケーションは上手で、リーダーシップもある人が多いです。

北浦——コンサルタントって人間関係が大事だと思います。話しかけやすい、名前を覚えてもらえる、これは大きいです。「最近忙しそうだけど大丈夫か」と違う部署の方に声をかけていただいたりしますから。

須賀——女性のちょっとした一言で場が和むこともありますよね。

司会——打ち合わせとかも上手くいくことが多いと聞きますね。少なくともケンカして帰ってくる人って、女性社員では聞かれませんよね(笑)。長谷川——双方の主張がぶつかれば感情的になることもありますよね。この仕事ってそういう主張の連続だと思うけど、それでも余りぶつからない?

清久——主張はぶつかりますけど、ちゃんと説明しますよね。多分女性には感情的にはなりにくいかな。なる女性もいるかもしれないですけど(笑)。住民の方や漁業協同組合の方と話す場面などは女性の方が上手くいくことも多いですよ。

### ■意識を変えるために

清久——男性ってONとOFFの切り替えが苦手な方が多くないですか?

長谷川——ありますね。ノー残業デーで五時に帰らせると、明るすぎて、何をしたらいいかわからないと言っ人もいます。

司会——ホントですか!?結構末期症状ですよ、それは(笑)。そういう人がいるのも多様性ですが、長谷川——何が個人にとって重要で、例えば職場の何に影響されるかなのです。今は、土日も働くような人は、肩身が狭くなってきている。この変化が大事なのです。我が社では、ワークライフバランス社に頼んで、三年間で東京都の働き方改革の補助もいただいて一億円くらい掛けて取り組みました。

司会——何をしてくれるのですか。

長谷川——個人・グループの働き方の改善点を指摘して意識改革を進めます。最初は「そんなことで仕事ができると思ってるのか」ってやりこめようとするのです。発表会をやったり、私も直接話を聞きに行ったりして、意識が変わるのに三年かかりました。

清久——それ、すごい反発出ませんでしたか？

長谷川——出ましたよ。「それなら仕事を減らせ」とかね。でも、経営者として、仕事を減らせば残業が減るのであればそれも良いが、本当にそれが解決策なのか、と理解して貰うのに苦労しました。

### ■新しい取り組み

長谷川——皆さんは、入社されてから、職場での働き方の変化を実感されていますか？

竹内——ええ。労働環境も入社一年目と今では全然違いますよ。

清久——取り組み方が本気になってきましたよね。

長谷川——今までの当たり前を変えなきゃいけないから、簡単にはいかない、それでも諦めないで言い続

間も必要ないですし、プロポとか書くときはすごく集中出来るので、在宅いいですよ。

長谷川——通勤時間がなくなるのは大きいですよ。立場や役割、打ち合わせもありますから、毎日とはいかないですが、女性に限らず働き方の魅力の一つになる可能性はありますね。

須賀——在宅勤務やノー残業デーに取り組みたくても、なかなか前に進めない会社も多いです。先進的な取り組みをする企業が、取り組みの上での難点にどのように対応したのかということを含めて、情報共有することが重要だと思います。あとは、育児や家庭と両立されている女性社員の方をロールモデルとして紹介していきたいと女性の会では話しています。

長谷川——それは良いですね。ただ、男性社会で奮闘してきたロールモデルもいいですけど、多様性の中で、価値を認められてハンデなく働ける。そういうこれからの時代の新しいロールモデルも是非作って欲しいですね。

### ■コンサルタントを志す女子学生に

司会——最後に建設コンサルタントを志す学生さんに一言ずつお願いします。

北浦——入社当時、部長に「仕事は楽しいですか」と質問したら「楽しいですよ。いろいろな業務に携われて、毎年新しい発見があり、興味が尽きない仕事です」と言われたのが印象的でした。今は私も同じことを伝えたいです。

清久——そうですね、毎年いろいろなことが自分の中にインプットされて、どんどん成長できる業界です。他の業界に負けないやりのある楽しい仕事です。



須賀奈津子 女性の会代表 株式会社長大  
竹内 彩 女性の会代表 株式会社オリエンタル コンサルタンツ  
清久笑子 女性の会代表 株式会社建設環境研究所  
北浦利依 女性の会代表 株式会社エイト日本技術開発  
長谷川伸一 建設コンサルタント協会 関東支部 支部長 パシフィックコンサルタンツ 株式会社 代表取締役会長



■同期社員との海外旅行 [竹内さん(右から2番目)]



■24時間リレーマラソンに参加 [北浦さん]

竹内——建設コンサルタントは、向上心を持っている業界だと思うので、ぜひ一緒に変えていきたいと思います。女性ということですが、不安に感じられる方も多いと思いますが、この仕事が好きでしたら是非仲間になっていただきたいです。

須賀——技術的専門性を活かして社会に貢献していける、そういう魅力的な職業だと思いますので、ぜひ目指してもらえたらと思います。

界全体で良い方向に変わっている段階だと思えますので、業後、より魅力的な業界になると思っています。

長谷川——安倍首相が「女性が輝く日本」と言っていますが、私は「男性は輝いているの？」と思います。男性の方が仕事人間からの脱却が下手で、輝いていないのではないのでしょうか。女性が輝ける職場は、男性が輝ける職場でもあるのです。女性には変えていかなくてはいけない動機があり、その能力もある。私も関東支部の支部長として、経営者の一人として、技術者の一人として、自分が輝くために自ら行動しようとするみなさんと共に、建設コンサルタントが輝き続ける職業としての道を模索して行きたいと思っています。



■リコーダーグループのミニコンサート [須賀さん(左から2番目)]

長谷川伸一(建設コンサルタント協会 関東支部 支部長 パシフィックコンサルタンツ株式会社 代表取締役会長)  
一九四七年六月、大阪市で生まれる。一九六六年にパシフィックコンサルタンツ株式会社に入社し、働きながら大阪工業大学工学部土木工学科に通い、一九七一年に卒業した。大阪支社第一技術部長、九州本社長、大阪本社長、事業統括本部長などの要職を歴任し、二〇〇八年十二月に代表取締役社長に就任。現在は、加えて、建設コンサルタント協会・副会長、及び関東支部・支部長、A J C E 理事、社団・財団評議員、理事等も務めている。二〇一〇年には、心臓中核欠損手術を受けるが、現在至って健康、読書、ウォーキング、カラオケ、お酒他趣味も多い。

北浦利依(女性の会代表 株式会社エイト日本技術開発)  
一九八三年生まれ、奈良県出身。神戸大学大学院工学研究科 市民工学修了。二〇〇九年株式会社日本技術開発へ入社し、構造物の耐震保全分野を手掛ける部署を経て、二〇一四年より事業推進部に所属。趣味は、スノーボード、マラソン。二月に結婚することになり、もとより好きだった料理なども頑張りたいと思っています。

清久笑子(女性の会代表 株式会社建設環境研究所)  
一九八一年生まれ、岐阜県出身。高知県大自然の中で、沈下橋から飛び込んだりしながら育つ。岡山理科大学大学院 総合情報研究科 生物地球システム修了。二〇〇七年株式会社建設環境研究所へ入社。環境アセスメント手続き、動植物調査、植物の移植、湿地整備などの環境保全措置、モニタリング計画の策定・調査、主に植物に関わる業務に従事。趣味は旅行(道の駅、温泉、ダム巡り)、登山、料理、音楽鑑賞、読書など。西日本の道の駅は完全制覇。

竹内彩(女性の会代表 株式会社オリエンタルコンサルタンツ)  
一九八七年 福岡県生まれ。福岡大学工学部 社会デザイン工学科卒業。二〇一〇年株式会社オリエンタルコンサルタンツへ入社し、構造分野を手掛ける部署に所属、首都高速道路、新東名高速道路、国道、市道等の橋梁計画設計業務に従事。趣味は読書、映画鑑賞。

須賀奈津子(女性の会代表 株式会社長大)  
一九八八年 愛媛県生まれ。鳥取大学大学院 農学研究科 フィールド生産科学修了。二〇一二年株式会社長大へ入社。環境分野を手掛ける部署に所属、道路事業やダム事業の環境影響評価に係る調査、予測評価及び道路緑地の維持管理手法検討等に従事。趣味はリコーダーでの演奏活動、音楽鑑賞(主にクラシック)、年数回の登山、採石場跡地巡り。

けることが必要なのです。女性だからと、特に意識されるようなことは少ないですか？

清久——普段はそうですね、相手によっては「こんな女の子に何ができるのだ」という感じの方もいますよ。それでも私がちゃんと仕事をすれば、認めていただけます。相手も技術者ですから。

長谷川——建設コンサルタントの仕事は、基本的には男性と女性のハンデはありません。結婚出産、育児を制約と見るのではなく、多様性と捉えて、価値に変える取り組みが必要なのです。

清久——今、会社で面白いことをやっていて、全員に五時半、六時、六時半、二十二時までの色が違うカードが渡されていて、帰る時間をみんな机の上に張り出しています。それで、赤カードが五日間続くと、次の日は絶対定時退社しなきゃいけないとか、ルールがあるのです。

長谷川——面白いですね、我が社では、朝九時から一〇分間、自分の予定を全員に知らせる朝メールに取り組んでいます。今日は絶対五時に帰るとか、スポーツクラブに行くと言言することと、帰るように努力するし周りも助けてくれます。

司会——建設コンサルタントの仕事はデスクワークですし、在宅勤務はどうでしょう。

竹内——清久さんのところは、やっていますよね？

清久——はい、全社員一回は在宅勤務を経験する試行をしています。会社のネット、サーバにアクセスできるパソコンがあれば、会社と変わらない環境で仕事ができます。昼休みは洗濯機を回したり、買い物に行ったりできるので、家事と仕事の両立がしやすいと思います。通勤時